

## 事業名：勤労者生活資金貸付事業

商工労働課 主査（商工労働）

|      |                 |      |   |              |     |      |      |     |  |
|------|-----------------|------|---|--------------|-----|------|------|-----|--|
| 政策   | 02 明日につながる産業の振興 |      |   |              |     |      |      |     |  |
| 施策   | 04 就業環境の整備      |      |   |              |     |      |      |     |  |
| 基本事業 | 03 福利厚生の充実      |      |   |              |     |      |      |     |  |
| 開始年度 | 昭和42年度          | 終了年度 | — | 実施計画<br>事業認定 | 非対象 | 会計区分 | 一般会計 | 補助金 |  |

|  |  |
|--|--|
| <b>事務事業の目的と成果</b>  |  |
| 対象（誰、何に対して事業を行うのか）   |  |
| 市内在住及び市内事業所に勤務する勤労者  |  |
| 手段（事務事業の内容、やり方）  |  |
| 市内同一事業所に1年以上勤務又は市内に1年以上在住し同一事業所に勤務する従業員を対象に、100万円を上限として一般生活資金等を融資する。 |  |
| 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）   |  |
| 市内勤労者の生活安定を図る。   |  |

| 指標・事業費の推移 |                |    |        |        |        |        |
|-----------|----------------|----|--------|--------|--------|--------|
| 区分        |                | 単位 | 23年度実績 | 24年度実績 | 25年度実績 | 26年度当初 |
| 対象指標1     | 市内事業所従業員数      | 人  | 32,675 | 32,675 | 31,342 | 31,203 |
| 対象指標2     |                |    |        |        |        |        |
| 活動指標1     | 勤労者生活資金貸付制度預託額 | 千円 | 3,500  | 3,500  | 3,500  | 3,500  |
| 活動指標2     |                |    |        |        |        |        |
| 成果指標1     | 新規生活資金利用者数     | 件  | 2      | 1      | 1      | 1      |
| 成果指標2     | 勤労者生活資金新規貸付金額  | 千円 | 2,000  | 500    | 300    | 3,500  |
| 事業費(A)    |                | 千円 | 3,500  | 3,500  | 3,500  | 3,500  |
| 正職員人件費(B) |                | 千円 | 401    | 401    | 391    | 391    |
| 総事業費(A+B) |                | 千円 | 3,901  | 3,901  | 3,891  | 3,891  |

|      | 事業内容（主なもの）   | 費用内訳（主なもの）   |
|------|--|--------------|
| 25年度 | 市内同一事業所に1年以上勤務又は市内に1年以上在住し同一事業所に勤務する勤労者を対象に、100万円を上限として一般生活資金等を融資する。 | ・貸付金 3,500千円 |

|  |  |
|--|--|
| 事業を取り巻く環境変化  |  |
| 事業開始背景   |  |
| 勤労者に対するセーフティネット構築の必要性                              |  |
| 事業を取り巻く環境変化  |  |
| 景気低迷の長期化により勤労者の給与が低下傾向で推移する中、勤労者の生活安定を図るための貸付制度が必要 |  |

|   |          |
|---|----------|
| 平成25年度の実績による担当課の評価（平成26年度7月時点）                      |          |
| (1) 税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？      |          |
| 妥当である<br>妥当性が低い                                     | 理由<br>根拠 |
| 勤労者に対して、何らかのセーフティネットを設定する必要がある。                     |          |
| (2) 上位の基本事業への貢献度は大きいですか？                            |          |
| 貢献度大きい<br>貢献度ふつう<br>貢献度小さい<br>基礎的事務事業               | 理由<br>根拠 |
| 勤労者の生活の維持・安定を図るための基礎的な事業である。                        |          |
| (3) 計画どおりに成果は上がっていますか？計画どおりに成果がでている理由、でていない理由は何ですか？ |          |
| 上がっている<br>どちらかといえば上がっている<br>上がらない                   | 理由<br>根拠 |
| 貸付件数は少ないが、勤労者の生活安定を図るために必要な制度である。                   |          |
| (4) 成果が向上する余地（可能性）がありますか？その理由は何ですか？                 |          |
| 成果向上余地 大<br>成果向上余地 中<br>成果向上余地 小・なし                 | 理由<br>根拠 |
| 制度の周知により成果が向上する余地はある。                               |          |
| (5) 現状の成果を落とさずにコスト（予算＋所要時間）を削減する方法はありませんか？          |          |
| ある<br>なし  | 理由<br>根拠 |
| 市の独自制度として定着している。                                    |          |